

人間関係の構築が難しい若者の自立支援について

～東京都ひきこもりサポートネットの相談事例より～

【ケース概要】

<本人の状況>

- ・30代前半。高校を卒業して就職したが、3年で離職し10年以上ひきこもり
- ・発達障害の疑いがある。

<地域との連携、対応>

- ・居住自治体の生活困窮者自立支援窓口の就労準備支援



<検討課題>

ひきこもりの方への支援は、本人の状況に合わせてスモールステップを進めていくことが必要なため、つながった支援機関それぞれでの伴走のあり方

【部会での主な意見】

<発達障害について>

- 発達障害の見極めには専門家の診察が必要であり、場合によっては医療につなげることが必要

<スモールステップを進めていくこと>

- 家族が本人への関わりを変えることにより本人に変化が起きる場合があるため、家族への支援も重要
- 本人の状況に応じて順を追って、本人に見合った支援を実施することが必要

<伴走のあり方>

- ひきこもりの本人を別の支援機関につなげる際、両方の機関が連携し、一緒に本人訪問をすると有効な場合がある。
- ひきこもりの本人へのこれまでの支援状況を共有し、関係する支援機関相互の役割を明確にすることが重要
- 別の支援機関につながったものの、もとの支援機関に戻ってきた場合、その時点の本人の状況に応じた支援が必要